

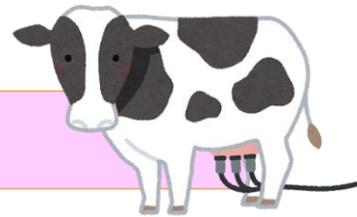
牛のサルモネラ症に注意！

～ 季節の変わり目に牛の体調管理徹底を ～

県北地域の酪農場において、令和6年8月～9月に2件のサルモネラ症が発生しました。

農場で発生すると、経済的損失をもたらすだけでなく、終息までに数か月を要し、飼養者へも肉体的・精神的に大きな負担がかかります。

季節の変わり目には、サルモネラ症が発生する傾向にあります。原因菌の農場への侵入防止と牛の健康観察を強化し、感染を予防しましょう。



1 症状

サルモネラ症は、サルモネラ属菌に感染した牛が、下痢をしたり敗血症となる病気です。菌のタイプや牛の年齢により症状が異なり、成牛でも発症します。

年齢を問わず共通する症状は、**元気消失、食欲不振、発熱、下痢（悪臭を伴う。泥状～水様便→血便）**です。

子牛：生後2週～6か月齢にみられ、特に**1か月齢未満の子牛では重症化しやすく、死亡率も高い**です。症状回復後も脱水・削瘦により発育不良となります。呼吸器症状や神経症状を呈することもあります。

成牛：**早産・死流産**を起こすこともあります。そのほか、乳量減少を伴い、重傷化すると死亡することもあります。

2 感染経路

ネズミや野鳥などの野生動物、飼料、保菌牛の導入などにより農場内に持ち込まれたサルモネラは、母子間や同居牛間の経口感染により農場内に広がります。

発症牛は、下痢が治まっても糞便中に菌を排出し続け、新たな感染源となることがあります。このため、発生の終息には長期間を要します。



3 予防・対策 **ポイント**

治療は、抗菌剤投与を行います。近年、多くの薬剤に耐性を持つサルモネラが増えていること、一度牛舎内に侵入すると終息まで長い時間と多くの手間がかかることから、牛舎内に菌を持ち込ませない、発症させないように予防することが大切です。



(1) 侵入防止

牛舎開口部への防鳥ネットの設置、殺鼠剤・粘着シート設置、ハエなどの衛生害虫の駆除。

車両消毒、牛舎内は専用長靴・作業着着用、導入牛は隔離し、健康観察後に牛群へ混ぜる。

(2) 発症予防

定期的な畜舎・飼槽・ウォーターカップ・器具の清掃及び消毒により、環境中の菌を増やさない。

子牛は、免疫機能が未熟のため、初乳を介した移行抗体が重要です。

成牛は、良質の粗飼料の給与や生菌剤の飼料添加が予防に有用であり、ルーメン環境を整えましょう。

岩手県中央家畜保健衛生所

Tel:019-688-4111

岩手県県南家畜保健衛生所

Tel:0197-23-3531

岩手県県北家畜保健衛生所

Tel:0195-49-3006